



大会長からの開催メッセージ

第6回日本予防理学療法学会学術集会

大会長 浦辺 幸夫

(広島大学大学院)

疾病の1次予防、2次予防、3次予防と全方位的に理学療法士が国民の健康増進にかかわることは、理学療法士のなかでコンセンサスとなりつつあります。これは、日本予防理学療法学会が分科学会に移行したのちに、第1回から5回に至る学術集会、サテライト集会、基礎・応用講習会などを開催してきたことから涵養されています。特に第5回からは完全に分科学会単独での開催となり、今回は2回目の単独開催となります。

専門的な介入が求められる産業理学療法部門と栄養・嚥下理学療法部門との共同開催を企画しています。学術活動と職能活動の情報共有や発展に向けた連携促進を計画しています。多数の演題から新規性ある柔軟な発想と可能性、科学性を追求し、新たな発展に向けた議論の場を目指します。準備委員会一同の思いと共に、ここに学術大会の開催趣意を唱えたいと考えています。

私たちのこのような経験と保健・医療・福祉をとりまく環境の変化のなかで、様々な問題が浮き彫りになってきています。「国民が健康を得るために自らが運動をするにはどうしたらよいのか」という問題が常に根底にあります。理学療法士の知識と技術を集めて、国民の身体活動を推進する必要があります。第6回学術大会のテーマを「健康増進と理学療法」という、シンプルですが重要なものと考えて設定しました。

今回、学術大会の企画においては、特別講演、教育講演、パネルディスカッション、シンポジウム、ワークショップ、市民公開講座など盛りだくさんの内容を計画しています。第6回学術大会が行われる広島市は平和都市、国際観光都市です。過去にも日本理学療法学会学術大会が開催された広島国際会議場をメイン会場とし、秋の気候の良いなか充実した学修と、さらに周辺の観光を含め、参加者みなさんの健康増進が図られることを期待しています。

平成30年11月20日